

非感染性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬の適正使用体制について 日本眼炎症学会

2007 年にインフリキシマブ（レミケード®）がバークヘット病による難治性網膜ぶどう膜炎に、また、2016 年にアダリムマブ（ヒュミラ®）が非感染性の中間部、後部または汎ぶどう膜炎の治療薬として承認されました。これら TNF 阻害薬はぶどう膜炎抑制効果が期待できますが、使用にあたっては、感染性ぶどう膜炎との鑑別はもちろんのこと、適応の見きわめが非常に重要となります。

さらに、使用中は重篤な感染症をはじめとした有害事象に対して十分な注意が求められます。

このため日本眼炎症学会としては、TNF 阻害薬使用検討委員会を立ち上げ、TNF 阻害薬の適正使用について検討を行うとともに、医師および医療施設の条件や使用上の注意をまとめた「非感染性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬使用指針および安全対策マニュアル（2016 年版）」を作成しましたのでお知らせいたします。

なお、TNF 阻害薬の使用にあたっては、当学会が監修し製薬企業（アッヴィ合同会社、エーザイ株式会社、田辺三菱製薬株式会社）が共同で運営する e ラーニング* の受講が医師要件の一つとなっております。必ず「非感染性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬使用指針および安全対策マニュアル（2016 年版）」をご一読いただいたうえで受講していただき、修了後に施設要件を確認したうえで施設情報を入力していただきますようお願いいたします。

<医師および医療施設の条件¹⁾>

医師基準	以下の 2 項目を満たすもの ・日本眼科学会眼科専門医かつ日本眼炎症学会会員 ・日本眼炎症学会が推薦する e ラーニングを修了したもの
施設基準	【導入施設】 ・重篤な副作用の発現などに対する定期的な検査や、投与時に急速に発症する可能性のある副作用に迅速に対応できること ・呼吸器、感染症疾患について対応が十分可能であること ・TNF 阻害薬の使用に精通した内科医との連携ができること 【維持施設】 ・日常診療において、導入施設との連携が的確に行われていること ・緊急時には導入施設と連携し、迅速な対応が可能であること ・維持療法後も導入施設において定期的な経過観察を並行して実施可能であること

1) 非感染性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬使用指針および安全対策マニュアル（2016 年版）より抜粋

* 受講に際しては、日本眼炎症学会ホームページの e ラーニングサイトのリンクよりアクセス（日本眼炎症学会から通知される ID とパスワードが必要です）ください。企業（アッヴィ合同会社、エーザイ株式会社、田辺三菱製薬株式会社）のホームページからもアクセスすることが可能です。

詳細は、各企業の医薬情報担当者にお問い合わせください。